２　記憶力を補助するためのメモの活用を通して（国語科、特に「書くこと」を通して）

(1) 個別の教育支援計画（中学校段階）

ア　本人の実態

氏 名	生徒Ｂ	学　年		性　別	

（小学校からの引き継ぎ事項）

学校生活の中で本児が困っている場面では、周囲の誰かが自然に手を貸していたため、通常の学級の中で６年間を過ごすことができた。友達との関わりの中で「いやだ」と言えないところがある。個別の学習指導はしていない。

（本人の思い・将来の夢）

中学校卒業後は高等学校へ進学し、その後、家から通いながら働きたいという思いがある。（ただし周囲の影響でそう思っているようで、積極的な意志は感じられない。また養護学校の存在を知らないので、進学先の情報を教える必要がある。）

（家庭で気になること・保護者の願い）

･学習面	･生活･行動面
就職が可能な程度の基礎的な力の定着を図って欲しい。	友達との関わりを大切にして欲しい。 明るく優しい人柄なので、これを長所として伸ばして欲しい。

（学校で気になること・担任の願い）

･学習面	･生活･行動面
小学校の時、通常の学級に在籍し、理解困難な内容で学習時間を過ごしていたため、学習習慣が定着していない。言葉や数に関する基礎的な力を身に付けさせたい。また、社会の出来事などにも目を向けさせたい。	言葉による意思表示が少ない。 小学校の生活で、手助けされるのが日常的であったため、多くの場面で受動的になっている。自分から進んで活動する習慣を付けさせたい。

(本人の学習に活用できるよさや能力)

素直で明るい性格。まじめに取り組もうとする態度。善悪の判断が付く。きまりが守れる。

(今までの療育･心理検査等の結果)

（心理的立場からの意見や支援）

検査では人の顔色をうかがいながら答えを出す場面が多く見られた。自分に自信がもてず、また失敗を恐れているようである。

(医学的立場からの意見や支援)

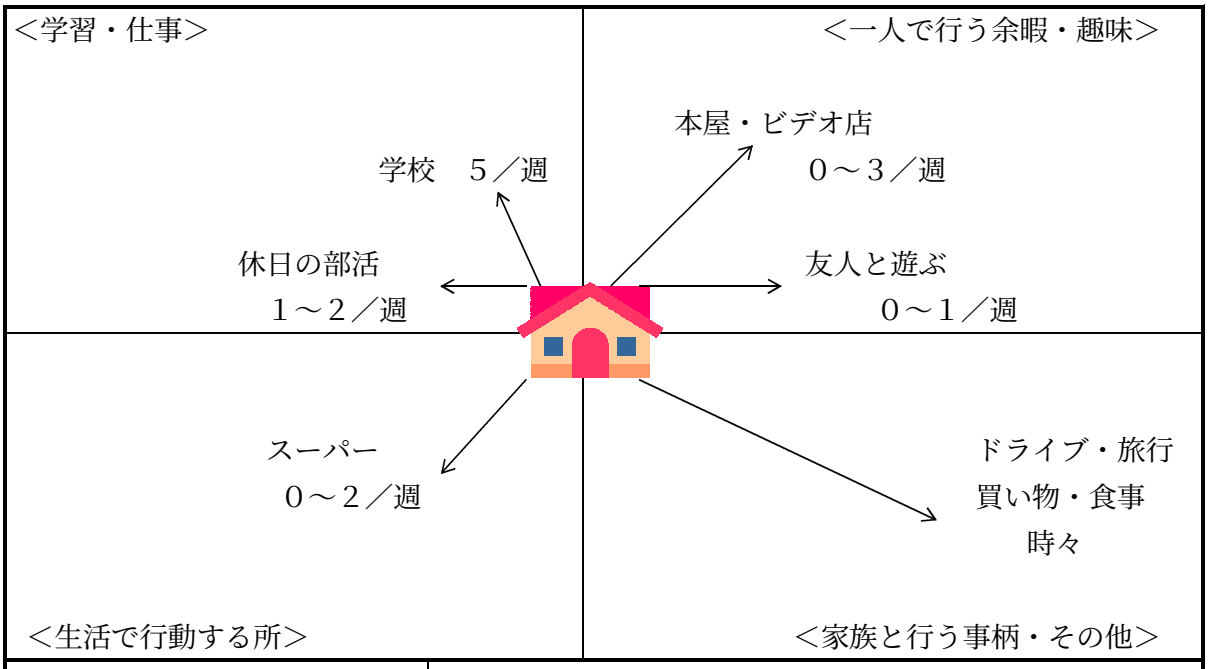
特になし

(その他の機関からの意見や支援)

特になし

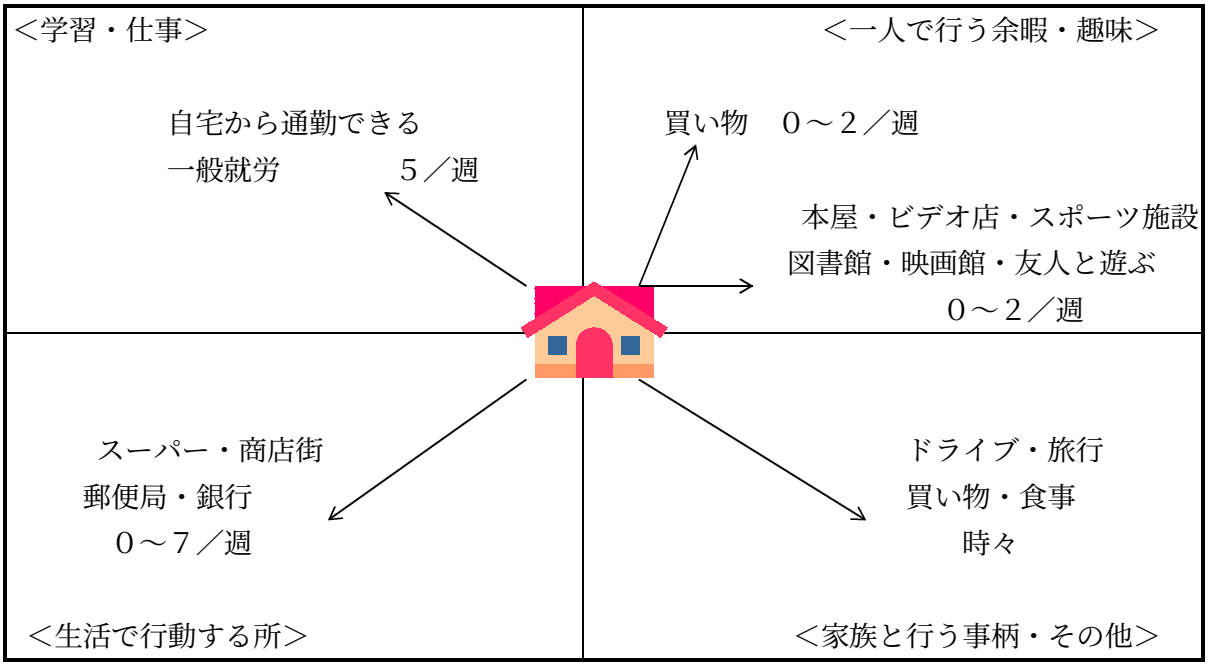
イ　生活地図

現在の生徒Ｂの生活地図



現在の課題	将来の希望
・余暇に利用できる施設等の存在を知り、行動の範囲を広げること。 ・個人的な買い物だけでなく、家族から頼まれた品物が一人で買いに行けるようになること。	・就労に向けて付けて欲しい力 意思表示　集中力　持続力 ・生活していく上で身に付けて欲しいこと 金銭処理（貯蓄を含む）、医療機関の利用の仕方 公共交通機関の利用の仕方 ・健康面など 肥満しない食生活

20歳の生徒Ｂの生活地図



ウ　課題と目標

（将来を見通した中学校３年間の教育の課題と指導･支援目標（重点目標と実施計画））

･将来を見通した本人独自の教育課題

・言葉や数に関する基礎的な力を付ける。　・集中して作業を行う力を付ける。

・生活体験・社会体験を重ねることで、自ら自信をもって行動できる基盤を作る。

･教科(国語)に関する指導･支援目標

・簡単な漢字を交えた文が書ける。　・メモを取り利用する。

・返事、挨拶、意思表示をする。　・余暇活動としての読書の習慣を付ける。

	長期目標	指導内容・方法	評価
中学1年	○言葉・数に関する基礎的な力を付ける。 ○コミュニケーションの取り方を身に付ける。	○漢字交じり文の視写・聴写・メモ ○加減法の計算 ○挨拶・返事の徹底 ○校区内の生活地図の作成 ○包丁の使い方	○間違えずに書いたり聞いたりできたか ○場に応じた挨拶・返事ができたか ○商店・病院・金融機関等、家族が利用している場所の確認ができたか ○簡単な料理が指導者と一緒にできたか
中学2年	○生活に関わる場所を自ら利用できるようになる。	○わかりやすいメモ・事実の記録 ○言葉による意思表示 ○自転車で移動できる範囲の生活地図 ○衣服のたたみ方・アイロン・調理	○メモの利用や買い物の際の計算ができたか ○自分の意志を言葉で相手に伝えられたか ○図書館や市役所等の利用ができたか ○衣服の片付けができたか
中学3年	○家庭の中で自分ができることを増やす。	○電話の利用や場に応じた話し方 ○手紙に思いを書く ○生活の中の計算 ○余暇を過ごせる場の探し方 ○ボタン付け・調理等	○言葉を通して他人と関わりあえたか ○生活の中で数が扱えたか ○いろいろな場面で適切に話せたか ○雑誌・広告等を利用して興味を広げられたか ○身の回りのことができるだけ自分でできたか

（実施した教育内容　　中学1年11月まで）

･学習面	･生活･行動面
文字の読み書き　加減法　毎日の気温の記録とグラフ化 校区内の生活地図の作成（校外学習） ビデオによる日本探検（地理・歴史） 野菜の切り方　卵料理 モザイク・ペーパークラフト・木工作品の製作	挨拶・返事の徹底 「できる」、「わからない」等の意思表示 集団の中での指示の聞き取り 単純作業の継続 「今日の出来事」の記録

（本人の状態の変化（対応も含む））

･学習面	･生活･行動面
文字・数の学習習慣が身に付いてきたように思われる。学習内容についても、段階を上げることを本人も望み、努力している。地図の利用はまだできないが、校外学習をすることで距離感がつかめてきたようである。またビデオを活用しての学習でイメージがつかみやすくなった。 作業学習では、まじめに取り組むものの集中力が続かないため、タイマーを使用し時間を区切って取り組んでいる。	現段階では自発的な言葉・行動は少ない。 教員に協力を求め、声掛けを多くし挨拶・返事の練習をしている。言葉遣いや意思表示は本人の意識付けから行っている。 本人が言葉で手助けを求めるまで、手を貸さないよう周囲の生徒に協力を求めている。

(2) 国語科（書くこと）の年間指導計画と評価

<table>
<tr><th>期間</th><th>単元</th><th>指導目標</th><th colspan="3">主な学習内容・活動</th><th>留意点</th></tr>
<tr><td>4月
～
5月</td><td rowspan="2">平仮名単語平・片仮名</td><td>・平仮名を正確に書く。</td><td colspan="3">・50音表を見て正確に写す。
・濁音、半濁音、拗音、促音など、音と一緒に覚える。</td><td>・文字のバランスに気を付け、他人にも読みやすい字となるようにする。</td></tr>
<tr><td>5月
～
6月</td><td>・聞いた言葉を書き写す。</td><td rowspan="4">単語や文の視写・聴写の反復練習</td><td colspan="2">・平仮名に対応する片仮名を練習する。</td><td>・特殊音の混じった単語を多く練習する。
・図鑑等を利用し語彙を増やす。</td></tr>
<tr><td>6月
～
9月</td><td>作文1</td><td>・短い文を書く。
・事実を羅列する。</td><td colspan="2">・知っている漢字を交えながら文を書く。</td><td>・日常生活から題材を選ぶ。
・自分で文が作れない時は、指導者の作る文を聞き写す。</td></tr>
<tr><td>10月
～
12月</td><td>メモ</td><td>・聞いたことをメモする。</td><td colspan="2">・メモを使ったゲームをする。
・連絡事項をメモして、相手に伝える。</td><td>・メモの必要性を知らせた後実施する。
・単語を書き留める指導をする。
・他者との関わりを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>1月
～
3月</td><td>作文2</td><td>・時間を追った文を書く。</td><td></td><td>・体験したことを思い出して書く。
・製作の手順などを書く。</td><td>・体験直後（遅くとも翌日）に作文を書かせる。
・指導者の言葉を書き取らせる。</td></tr>
</table>

（１年間の成果と今後の課題）

【11月現在の様子】普段よく書く文字（教科名、人名等）以外で、獲得している漢字は少ない。また平仮名・片仮名とも完全には覚えていないため、50音表を確かめながら書くので時間がかかる。まず確実に平仮名・片仮名を覚えさせたい。

メモする文字は不正確で他人にはわかりにくいが、それを自分なりに利用することができるので、効果的なメモの取り方を指導していきたい。

（今後の課題・引継事項）

一般就労を目指し、場に応じた応対ができるよう、様々な場面を想定したロールプレイングをしたり、実際に体験したりすることで、コミュニケーション能力を高めていく。

作業の持続時間を延ばすために、達成感のある題材や変化のある飽きのこない題材の選定に努める。

(3)国語科学習指導案

1　単元名　「メモを利用する」

2　目標‥‥指示された内容を聞き写すことができる。
　指示通りに行動するために、メモを見ればよいことが分かる。
　時間が経過しても、メモを見て行動することができる。

3　指導計画（全５時間）
　(1) メモの必要性を知る　・・・　１時間
　(2) メモの利用（教室で練習）　・・・　２時間
　(3) メモの利用（インターホンの利用・他者との関わり）　・・・　２時間（本時　1/2）

4　本時案
　(1) 主眼（目的）単語でメモを取り、それを見て行動することができる。
　　初めて会った人に、メモしたことを伝えることができる。
　(2) 展開

学習の流れ	生徒の活動	支援上の留意点
見学者の紹介	自己紹介をする。	自己紹介の内容をあらかじめ書かせておく。
練習① 探し物ゲーム １回目　５個 ２回目　７個	文房具の名前とそれが隠されている場所を指導者から聞き、探し出す。その際、メモを取り、それを見ながら探し出すようにする。 （例　セロテープ　…　ミシンの上）	確実にメモが取れるよう単語で指示を出す。 書き取れなかった時は「もう一度言って」と言うまでは繰り返さない。
練習② 課題を聞き、メモを取る。	課題をメモした後タイマーを15分後にセットする。 （課題の内容…教室内の五つの人形をどの袋に入れるかを聞き、メモする。タイマーが鳴ったら袋に入れる。その後、鉛筆と用紙を持ってインターホンの所で待機する。） 15分間、聞き写しの練習をする。	メモしやすいように表の書かれたプリントを用意する。 課題をメモした後、言葉で確認して１５分後にメモを見ることを意識付けする。
15分後にメモを見ながら、課題を実行する。	タイマーが鳴ったら、メモに書かれた課題を実行する。	
練習③ インターホンで課題を聞き、メモを取る。	インターホンを受け、課題の内容をメモする。 （課題の内容…探し物ゲームで使った文房具の片付け場所。片付けが終了したことの報告。）	指導者はインターホン利用のため教室内に不在なので、必要に応じて指示を出してもらうように、あらかじめ見学者と打ち合わせをしておく。
文房具の片付けをする。 片付け終了の報告をする。	実行後にインターホンで片付けが終わったことを連絡し、次の指示（見学者への伝達）を聞く。 （伝達内容…反省会は11時より視聴覚室で行います。赤ペンを持って来てください。）	初めて会う人と会話をする場を設定する。
見学者に伝達する。	見学者に上記内容を伝達し、見学者の質問に答える。 （質問内容　…　視聴覚室の場所）	見学者に質問してもらうことで、会話を増やす。
学習の振り返りをする。	指導者と一緒に、文房具の片付け場所が正しかったか確認する。 見学者から、自分の話し方のよかったところや悪かったところを聞く。	第三者に感想を言ってもらうことで、反省事項を印象付ける。

(4) 研究の成果

本研究を進める中で「個別の教育支援計画」を作成したが、今までのものとの大きな違いは20歳になった時の生徒の姿を想定したことである。その姿も、本人・保護者・担任の願いを総合的に判断して、より具体的で現実的なものとなっている。そしてそのような将来像を描くことで、どんな力を身に付けていけばよいのかを具体的に考えることができ、現段階での課題を明らかにすることができた。

生徒Ｂは、言葉で意思表示をすることが苦手である。「分からない」と言うことを恥ずかしく思ったり、「もう一度言ってください」と言うことに遠慮があったりして、何をしていいのか分からないままぼんやりする場面がある。しかし、やるべきことが分かっていれば真面目に取り組むことができ、作業態度、作業能力、性格等から判断すれば、一般就労は十分可能であると思われる。ただ、今のままでは言葉による指示が伝わったかどうかが分からず、指示が伝わったとしてもそれが記憶できないために行動できず、就労先で支障が出てくるのではないかと懸念される。そこで、やるべきことが文字として書かれていれば、その内容を理解し行動に移せるのではないかと考え、「メモを取る」という課題を設定した。

授業実践では、まず確実に平仮名・片仮名を覚え、指導者の言葉を聴写する練習をし、メモを取るという段階に進んだ。「メモを利用する」の授業では、ゲームを取り入れ意欲をもたせると同時に、メモを使う場合と使わない場合の両方を行うことで、メモの重要性を生徒Ｂに認識させた。メモを使うと確実にできることから、生徒Ｂは自信と安心感を感じることができたようである。

また、教室のインターホンを使って、日課連絡等をするという学習の中では、相手の顔が見えない状況でメモを取るため、言葉が頼りとなり、生徒Ｂから確認のための繰り返しの言葉や、「次は」、「もう一度」といった言葉が自然と出てくるという成果が現れた。

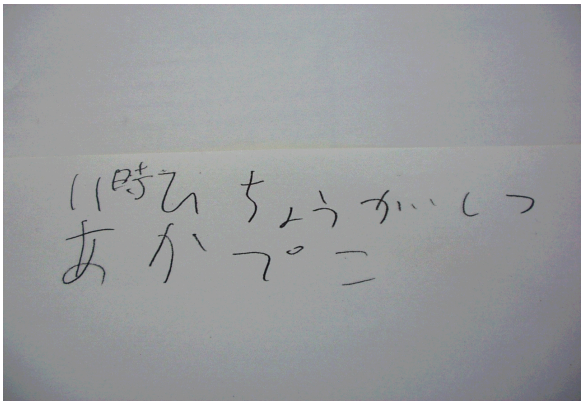


図28　生徒Ｂの書字

現段階では生徒Ｂのメモは文字が不正確で、書く速度も遅く、まだ就労先で役立つものではない。しかし、記憶力を補うといった面では、効果が上がっており、さらに指導を続けることで、生活の中で有効なメモを取ることができる可能性が出てきている。

(5) 今後の課題

小学校を通常の学級で過ごしてきた生徒Ｂは、皆と同じことができず、劣等感や自信のなさから、自分の意志をはっきり言えない状況にあったと思われる。生徒Ｂが自分の考えや気持ちを意思表示することができるようになるには、自信をもつことが大事な要素である。

今回の実践「メモを利用する」は、一つの手段であるが、メモを取ることによって自分のやるべきことを知り、不安をもたずに活動することができ、それが生徒Ｂの自信につながっていったように思う。今後はそのメモを指導者に言われて取るのではなく、自分から進んで取るような場面を設定していき、また、記憶力の弱さを補うためにメモを取るという意識をもたせていきたいと考えている。そうすることで、生徒Ｂは自信をもって活動することができるのではないかと思われる。